

栄光

説教・「見えないものに目を注ぐ」 東京神学大学学長 神代真砂実……	1
特集・ 身体を整える……	2
振起日礼拝に出席 して……	5
説教・「立ち帰れ」 新井美穂牧師……	6
西南支区平和講演 会報告……	7
長老のファイル……	7
牧師の書齋から……	8

『見えないものに目を注ぐ』

説教

創世記15章1節～6節
コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章16節～18節

東京神学大学教授・学長 神代真砂実

「私たちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです」(Ⅱコリント4:18)。この「見えないものに目を注ぐ」生き方、それが信仰です。

この「見えないものに目を注ぐ」信仰に生きた、二人の人の話をしてみよう。最初の人はクルト・ロイバーというドイツ人です。彼はドイツの田舎の牧師でしたが、第二次世界大戦のときに召集され、東部戦線での最大の激戦地であったスターリングラード(現ヴォルゴグラード)での戦いに加わります。この戦いは、ソヴィエト軍に包囲されたドイツ軍の降伏で終わりを告げたのですが、包圍

朽ちるとしても」という言葉にこめられています。

ロイバーは手紙の中で、自分たちが「暗黒と死と憎しみにとりまかれている」と書きましたが、それはパウロも同じであったでしょう。ところが、その苦しみをパウロは「軽い苦難」(17節)と呼びます。これは、「見えないものに目を注いでいてこそ言えることです。

「見えないものに目を注ぐ」というのは、見えないものを目標として、しっかりと見据えるということです。そのとき、見えないものの力が私たちを捉えるのです。

その「見えないもの」とは、「永遠の栄光」(17節)です。これは、神様との、しっかりと結びつきを言います。聖書や教会は、それを「永遠の命」とも呼んできました。これに目を注ぐとき、その永遠の命の力が私たちの中に働きます。

「内なる人」(16節)というのは、永遠の命に目を向け、信仰によって生きている人のことです。そのようにして、永遠の命に、いま与っているなら、「外なる人」が朽ちても問題ではないとパウロは言

います。「外なる人」とは、神様を忘れていて自分・罪を引きずっている自分のことです。いくら苦難があっても、それらの苦難は、私たちの「外なる人」にしか手を出せません。私たちが、「日ごと」に新たに「与る豊かな命に苦難は指一本触れられないのです。

この永遠の命の強さを裏づけているのはイエス・キリストの復活の力です。人間を人間として本当に生かす、神様との生きたかかわりの力です。信仰を通して、私たちに、永遠の命が通うようになるとき、私たちは、そのような、イエス・キリストの復活の力をいただいているのです。そして、イエス・キリストの苦しみの道が復活に続いていったように、私たちの味わう苦難もまた、私たちに、栄光を得させることになるのです。

「私たちは落胆しません」(16節)。これは、いつも元氣だということではなく、信仰をもって生きることとを捨てないで、人生に一生懸命に取り組むということです。自分の中に力強く働く永遠の命によってこそ可能になる生き方です。

(振起日礼拝)



身体を整える

10月になりましたが、猛暑の疲れが残っている方も
いらっしゃるのではないのでしょうか。

身体を整えるための、お勧めの方法を教えてください。



心穏やかに

大西律子

家族が寝静まった後、静かなリ
ビングで一人、韓流ドラマを見る
のが、私の至福の時間です。見始
めるとなかなか途中で止めること
ができず、ほぼ毎晩夜更かし状態。
この年で夜更かしなんてとんでも
ない話で、皆様にお勧めできるよ
うな健康法など何もないのです
が、こんな私が唯一やっているこ
とが、毎日ビタミンCをたっぷり
摂ることです。こだわりのサプリ
を朝晩2回、そして仕事終わりに
レモンとクエン酸のたっぷり入っ
たドリンクを飲み干します。全身
にビタミンCが沁みわたる感覚が
とても気持ちいいです。

皆様もご存知かと思いますが、
私の夫は昨年10月末、ペースメー
カー移植手術を受けました。医師
からは「健康診断で見つかったの
が本当に幸い。このまま気づかず
にいたら、どこかで失神して倒れ
て、そのまま心臓が止まっていた
かもしれない」と言われました。
主人が入院している間、ふと思い
ました。いつも当たり前のように
そばにいた人が、ある日突然自
分の目の前から消えてしまったら
と。亭主元気で留守がいい、なん
て思ったこともありましたが、怖
くて涙が出てしまいました。主人
は、明るくて楽しくてとても優し
い人です。入院中も私よりずっと
不安だったはずなのに、見舞いに
行った私をいつも冗談で笑わせて
くれました。そんな主人に私はい
つも支えられていたことに、改め
て気づかされました。幸い、仕事
も大好きなゴルフも今まで通り続
けることができ、本当に感謝です。
私たち夫婦ももうじき60代半ば
になり、身体のおちこちに変化を
感じるようになりました。これか
ら一年一年、年を重ねる度にその
変化は増えていくことでしょう。
お互いの弱さを補い合いながら、
日々を穏やかに過ごしていけたら
と思います。そのためにもまずは
夜更かしをやめること、そして体
力気力の続く限り適度に仕事を持
ち、心身と脳に刺激を与えて、健
康寿命をのばしていきたいです。

病名は左大腿骨遠位端骨折

田中暉通

今年の夏は入院生活で始まりました。5月31日の夜寝る前に室内で転倒し、左大腿のお皿の近くを骨折。夜中救急車で日産玉川病院へ搬送されました。レントゲン検査される前は脱臼かと思っていましたが大腿骨骨折と聞かされ愕然。

入院生活を開始したのが6月1日。初日はところどころ検査を受けるがこれが痛い。ちよつと足に触られただけで悲鳴を上げたいくらい。早く手術して欲しいとお願いがするが、翌週に学会があり麻酔科の先生の都合がつかず、1週間ほど先になると告げられました。

転院してでも何とか早くと願ひ出たりしてなんとか5日の月曜日に手術を受けました。手術までの4日間は足を懸垂し、じつと動かさず辛抱、辛抱でした。手術の内容は、長さ20センチほどのチタンシャフトを大腿骨に5

本のネジで固定、傷跡も小さく技術の進歩に感服。それとリハビリの進歩にも驚きました。私は40年以上前に同じ左脚の脛骨をスキーで骨折、4年前にも膝のお皿の下を痛めた経験をしているのですが、病院でのリハビリ指導の経験はなく、今回の手術3日後にリハビリ開始とは戸惑いました。

それとギブス固定の治療方法に比べると回復が早く、2週間で足に30%負荷をかけられ松葉杖での歩行開始。4週間目で杖だけで歩けるようになりました。40年前は自己流で、ただ強引に歩くのみのリハビリを経験している私としては現在の安全第一、慎重なりハビリ指導にはしびれを切らし、7月一杯で退院してしまいました。

8月からは訪問リハビリを受け、9月には杖無しで外出も出来るように回復しました。例年、夏は高原でゴルフなどで体を動かして暑さに対抗していましたが、今年の夏は骨折のおかげで6月、7月は病院で、8月からは自宅で冷房機械頼りの怪我病人生活でした。

トレーニング

持田滋子

人の身体の耐用年数は60年らしいと誰かが言っていたような気がしますが、70歳を過ぎると周りの友人の誰もが何かしらの故障を抱えています。私の最初の異変は20年以上前でした。その頃せっせと通っていたテニスコートでサーブ

の練習の後、腰痛で歩くのも大変なほどに。整形外科で湿布やマッサージの治療をうけ、元通りになるまで何ヶ月もかかりました。治るのに時間がかかったお陰で、座る時には堅い椅子を選び、長くもたれないなど腰に負担をかけないように気を付けるようにはなりませんでした。腰痛予防のための3つの体操を友人に教わり、しばらくは続けていたのですが、喉元過ぎればなんとやらで、今は覚えていない1つだけを時々思い出して行う程度。ただ、予防には腹筋と背筋を鍛えるしかない、筋トレの重要性を自覚させられた出来事でした。

筋トレに目覚めてからはNHKで放送されているいろいろな講座を録画しては試してみました。さすがに一流のトレーナーや大学の先生の指導なのでどれも効果がありそう。問題は地道にコツコツと努力を続けられない私の性格にありませんでした。その上鍛えなくてはならない箇所は増える一方で、最近

は舌の筋トレまで加りました。年を取ると普通に故障なく暮らすのも大変なことです。そんな中、何とか続いているのが「風呂トレ」です。温泉療法を研究している水中運動の専門家の先生が推奨するお風呂でのトレーニングです。入る前に50ccの水を飲みます。お湯の温度は39度、湯船で3回深呼吸してから始めます。トレーニングの種類は色々紹介されましたが、一番のおススメは肩回しです。下半身が湯につかっていると水圧で血液が上にながっているので肩を回した時に老廃物が除去されるそうです。その他、前屈や腰をひねるストレッチも水中なら無理なくできます。お風呂に入ったついでにお試しください。

楽しみながら走ること

持田祐介

若い頃はハンバーガーや焼き肉を食べても体のことを気にすることなどなかったのですが、30代になると徐々に健康診断の数値が悪くなり、40代になると友人と話をしていると健康の話題が出るようになりました。健康が気になる世代になると、私は健康診断で数値が悪くなるたびに何か変えなきゃと考え、もっぱら食事を変えることに努めていました。血圧の数値が高くなつたらもずくを、コレステロールの数値が高くなつたら納豆、さばの缶詰、えごま油を食事に追加して食べるようになりまし

た。母には「そんなに食べてよく食事を全部食べられるね」と言われましたが、もともと人一倍食べる方ですし、白米を減らしてパランスを取っているので食べ過ぎたという感じはしていません。しかしながら、やはり食事だけで何とかするのは無理があるよう

コロナ後遺症

清水清佳

で、運動もするようになりまし

まず家の周りの散歩を始めました。景色を楽しみながら散歩するって良さそうだなと思つたのですが、何回かやっているとうちに家の周りを歩くことに飽きてしまいました。別のことに変えようと考えて始めたのがランニングです。ランニングはやればやるほど走れる距離が長くなるし、タイムも短くなる。そんな目に見えて成長を感じられることが楽しくなり、ついにはフルマラソンを完走できるようにもなりました。そうやって楽しみながら走っているうちに、健康診断で数値が悪くなることはなくなりました。

私は走ることで身体が整うと思つています。今日は疲れたなあ、走るのはやめようかなと思う時も走ってみると意外と長い距離を走れたり、走つた後は走る前より身体が軽くなつたと感じたりします。自分に合った運動を楽しみながらやること、これが身体を整えるのに一番だと思います。これからも身体を整えるべくランニングを続けようと思ひます。

夏ごろから相次いで友人のコロナ感染を聞くようになった。偶然かもしれないが後遺症がある人ばかり。

よく聞く、味覚臭覚がなくなる人、記憶障害（いわゆるブレインフォグ）になる人がいた。

私も一昨年の2月に感染した。咳がひどくて目覚めると、眠れなくなるのに悩まされていた。やつと諸症状が治まり、元気になつたと思つたら、2回ほど予定をすっぽかしてしまつた。

それも、予定を入れていた事そのものを忘れていて、その予定を書き込んでいたカレンダーを見て自分が書いた記憶がない。

普通なら書き込んだ記憶が戻るので、物忘れだと気づくが、そういう記憶が全くないので、認知機能が衰えてしまつたと焦つた。

対策として、朝に必ずカレンダーを見て予定を確認する。日中も

気づいたら見るようにした。しばらく不安な日々が続いたが、1ヶ月後位に運動を再開したら劇的に改善された。

友人にこういう後遺症が出ることもあるから、気をつけてと連絡したら、まさにその日症状が出ていた。その友人は、書類を職場に置いてくるためにカバンに入れていたのに、帰宅したらカバンに入つていておかしいと思つていた。そういうことか!!と腑に落ちたようだ。

私も最初は記憶障害とは分からなかつた。気づかずに過こして、一時期忘れっぽくなつていたようにしか思わない人もたくさんいるだろう。

人によつては力が入らなくなり、寝たきりのようになる人もいるそう。様々な後遺症が出るウイルスの強さに驚いた。

今もしかししたら人知れず後遺症に悩んでいる人がいるかも知れない。時間はかかるが治るので、焦らず無理をしないでくださいと伝えたい。

振起日礼拝に参加して

見えないもの大切さ

文 弘元

説教は「見えないものに目を注ぐ」と題して、見えないものにはどんな力があるのか、見えないものに信頼はおけるのか。見えないものに目を注ぐ生き方の持つ力があるのか、その力はどこから来るのかと、冒頭から問いかけられた。

ロイバーは暗黒と死と憎しみの中であつたが見えない信仰をもつことで、光、命、愛を見ることができた。パウロもそうであつた。ロイバーはドイツの牧師であり、優れた業績はないが一枚の絵を残した。彼はドイツ軍の軍医となり、その後、ソ連の捕虜となり命を落としてしまう。『聖塚のマドンナ』は聖塚の中でクリスマススの祝いとして描かれた。ロイバーは見えないものへと向けられていた眼差しを一枚の絵として残したのであつた。

「見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続する」。キリスト教を広めたパウロの働

きは大きかつた。見えないものに目を注ぐ生き方が信仰である。私たちが目を注ぎ、目標としているものは目には見えない。その見えないものの力が私たちを捉えたとパウロは語っている。その見えないものとは聖書に書かれている永遠の栄光（復活の命）である。栄光とは神様がそこにおられるということであり、私たち人間が神の栄光に入り、与るということを指している。私たちが神様に近づき、

神様と親しく関わるといふことが何よりも尊く、クリスチャンとしての生き方においてこの上ない喜びである。そしてそのような神様との決して失われることのない絆を聖書も教会も永遠の命と呼んできた。パウロもロイバーもこの永遠の命に生かされた。

永遠の命にはイエス・キリストが勝利され復活された力が注がれみなぎっている。パウロは信仰をもって復活されたイエス・キリストと共に生きた。イエス・キリストが教え導いてくださっているこの光、命、愛を心の中にある聖霊で燃やして、信仰生活をイエス・キリストと共に歩んでいきたい。

信仰を持つ、ということ

沢田寛子

初めての先生の説教を聞く時はなぜかいつも緊張します。どんな声の方なのか、どんな言葉から始まるのか。そんなことを考えながら講壇に立つ先生の第一声を守っています。「振起日礼拝」でお迎えした神代真砂実先生はとても静かで、穏やかな口調で私たちに語り始められました。

「私たちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです」と、その日の聖書箇所の後半の引用から始まり、「見えないものに目を注ぐ生き方、それが信仰である」と続きました。ハッとさせられ、自分の信仰がまた新たに振るい起こされた第一声でした。

そして、それぞれ生きた時代は違つていても、見えないものを目を注ぎ、信仰に生きたパウロとロイバーの話。私だけではなく、礼拝後にさっそく『聖塚のマドンナ』と検索して、ロイバーが描いた絵をご覧になつ

た方も多かつたのではないのでしょうか。

スターリンググレードでソビエト軍による包囲の中。降伏直前の聖塚の中で、クリスマスのお祝いのために地図の裏に描かれた一枚の絵。マリアが幼子のイエスを抱いていて、安らかに抱き合う姿です。絵には「光・命・愛」という3つの言葉が書かれています。寒く、生き残ることさえ難しい状況の中であつて、どうしてこんなにも安らかな絵を描くことができたのでしょうか。木炭で描かれたという絵なのに、暗さを感じません。「光・命・愛」という言葉のおかげで、モノクロではなく温かい色味を感じます。

キリスト教を広めたパウロも伝道の旅の中で数えきれないほどの苦しみを経験しています。どんな困難にあつてもパウロに「軽い苦難」と言わせたものと、暗い聖塚の中に置かれていてもロイバーに「光・命・愛」と書かせたもの。それは、信仰を持って生きることを捨てないこと。そして復活されたイエス・キリストと信仰を通して結ばれているから、と教えられました。

説教

『立ち帰れ』

エゼキエル書33章7節～11節
マタイによる福音書18章15節～20節

伊勢原教会牧師 新井美穂

エゼキエルが呼び出された「見張り」の仕事は、警告です。

エゼキエル書33章8、9節は、この警告を聞いた悪人が、悪人自身の結果で死んだとしても、見張りが責任を問われる場合と問われない場合があると記します。この違いは、罪の道から離れ、神に立ち帰るように、語るか、語らないか、にあるとあります。しかし、見張りが神様の言葉を省くことなどあるでしょうか。33章1～6節を見ると、責任を問われる理由は、怠りがあると明快です。

警告ではあるけれど、裁きではなく、どんなことをしてでも立ち帰らせたいと思ったださる神様の慈しみとしての警告を伝え、自分もそれを聴き、生きる、という見張りのあり方を、今日のマタイは一言で示します。

マタイによる福音書18章15節「とがめなさい」という言葉です。

これは元々、光に晒すという意味があります。マタイの文脈で言えば、キリストの光に晒し、誤りに気づかせる、ということですが、警告が発覚でも粗探しでもなく、相手が自分の誤りに気づき、神様の前に立ち帰る、慈しみの警告であることが大切です。警告が慈しみの警告になるには、発する言葉に、祈りが必要であることを19節は教えてくれます。

祈りに根ざした言葉で伝えるとがめが、相手に届かず、とがめられた人は教会を去っていくか、教会に分裂を招くか、そういう現実とそれへの対処を18章15節以下は描きます。

マタイの「異邦人」の記述には、矛盾の並立があります。それは、一見相反するように見える「異邦人」理解の記述です。この記述は、私たちの心が抱える複雑さの表れです。

集合名詞としての「異邦人」については、厳しい記述(6・7、10・5、18・17、20・19等)をします。他方、一人ひとり顔が見える関係の「異邦人」に対しては、信仰の模範(2章、8章、15章)として記しています。前者には、先人観や思い込みでレッテルを貼って差別を生んでしまう私たちの姿が表されています。後者には、直接対話を通じ、対等な関係、尊敬が生まれる出会いを築くことができる可能性、信仰を生きる者としての姿勢、教会の姿勢が示されていると考えられます。

そう考えて18章を読むと、主イエスが異邦人・徴税人に関わったように、繰り返し、諦めず、祈りに根ざした言葉で関わりなさい、その関わりを中心に、主イエスが必ずおられるのだから、心配せず、恐れず、臆せず関わりなさい、と言われているように思えるのです。

見張り人としての教会とキリスト者は、他者に向かって立ち帰れと言ふ立場にあると思う時こそ、実は自分が、神様とキリストに真っ先に立ち帰れと言われているのです。その慈しみの中に置かれて

いることに気づきたいと思えます。

季刊『教師の友』の「平和の源に」という共同祈願は、祈りの言葉を自分で考える参加型の祈りです。伊勢原教会の教会学校はこれを毎週祈っています。「人に戦争を命令するプーチンを普通の市民に作り変える勇気をください」という祈りを考えたお子が、ちょうど広島サミットが終わった時期だったので、「プーチンも呼んであげればよかったのに」と、祈りを考えながら言いました。命を大切にするという一点で、子どもは、鮮やかに軽やかに対立の壁を超えています。

平和思潮が退潮し、逆風の中にある今、教会が残せるものは、唯一礼拝です。どんな時代になってもただただ礼拝を守り続ける。これが意外と難しく、私たちは無力ですが、神様に見張りとして立てられた者として出来つこない諦めた気持ちになることもしばしばあります。キリストに導かれ、キリストの思い、神様の思いを邪魔せず、生きさせていただけよう祈って歩んで参りたいと思えます。

西南支区平和講演会報告

9月17日に、渋谷の美竹教会において「西南支区 平和と核廃絶を祈るつどい 平和講演会」が持たれました。21の教会から54名の参加者があり、多くの同じ地域の教会の方々とともに祈りのときを過ごせたことに感謝します。

講演会では、美竹教会の牧師で、青山学院大学教授でもある左近豊先生から「シャロームへの格闘―聖書に聴く平和」という題でお話を伺いました。その中で「平和観の相克」として、ノルウェーの社会学者ヨハン・ガルトウングの「積極的平和」と「消極的平和」という平和の捉え方のお話がありました。脅しと恐怖で戦いを抑止することで保たれる、戦いのない状態（消極的平和）は、今、日本の政治で盛んに語られる「積極的平和外交」（積極的）「平和」と一見前向きな言葉を使うことで本質を隠している点で、言葉の冒瀆であり、侮辱であり、聞く私たちを愚弄していると私は思っています）でもあるでしょう。一方で、貧困や差別、人権侵害のような「構

造的暴力」までも含めたあらゆる暴力がなくなった状態の「積極的平和」はシャロームと重なる部分があるとのことでした。その「積極的平和」の一例として、アフガニスタンの支援を行っていた中村哲さんの活動の紹介と、中村さんの愛読書であった内村鑑三の『後世への最大遺物』が示されました。「大事なのは」この世の中は決して悪魔が支配する世の中にあらずして、神が支配する世の中であるということを感じることである。（中略）この世の中は悲嘆の世の中でなくして、歓喜の世の中であるという考えをわれわれの生涯に実行して、その生涯を世の中への贈り物としてこの世を去るということでありませう。

旧約聖書の「シャローム」は、自然発生的に出現するものでなく、神の賜るシャロームを示された共同体が、祈りと意思をもって御業に参加することで作り出されるものと考えられているとのことでした。私たちも西南支区の諸教会と共に祈り励ましあいながら、主の平和への歩みを一歩ずつ進んでいきたいと思います。（大友太郎）

長老のファイル

8月は日曜日の礼拝のみで、集会、委員会ほぼ休みとなりました。8月が終わり9月に入っても猛暑が続き、異常気象の記録が更新され続けました。暑さの終わりを求めて毎朝天気予報を観るのですが「熱中症にお気をつけください」という警告が繰り返されるばかりでした。

7、8月の私の生活は午前中に掃除、洗濯。昼食後はエアコンの効いた部屋で昼寝をしたり、テレビを観たり、インターネットを使って興味のある事柄を検索したりして、日中の暑さを凌いで過ごしていました。便利な道具のおかげでボタン一つ押すだけで知りたいことをすぐ知ることができます。インターネットで即座に溢れるように入ってくる情報が真実で間違っていないことなのかは、賢くないと見極めるのは、難しいとも言われています。簡単に得た知識や情報の川に溺れ流されないように注意が必要なようです。

「暑いから」と言い訳をしてだ

らだらと日々を過ごしていた私に、9月3日、振起日礼拝の説教で東京神学大学学長の神代真砂実先生は静かな口調で淡々と、見えないものに目を注ぐ生き方について語ってくださいました。キリスト者として何を見据えて生きてゆくのかを教えてくださいました。御言葉を聞き悔い改めて、すぐに忘れて目に見える周りに心を奪われて生活してしまう私です。毎週礼拝で御言葉を聞き、新たにされながら歩んでゆこうと思いました。

9月第2週の礼拝後に定例の長老会が開かれました。牧師報告、会計報告、教会学校報告、各委員会報告がありました。コロナの感染対策については5類になったとは言え、教会員や家族の感染の報告もあり、世間の感染患者数の増加、インフルエンザの流行の兆しなどを鑑み、引き続き教会内での飲食の禁止、手指消毒、マスクの着用、密集を作らないことを維持してゆくことを改めて確認しました。教会に集う人の健康をお互いを守るために、不自由ですが気を付けて過ごしましょう。（鈴木こづえ）



牧師の書齋から

『栄光』は1953年7月号が創刊号です。今号は827号となります。ようやく全号をデータで読むことができるようになりました。ただし2004年までの『栄光』は、コピーして画像(PDF)にしたものです。古い『栄光』は合本からコピーしたため、綴じたところは読み取れない箇所があります。残念ながらテキストとして

他のデータに切り貼りすることはできません。2005年以降の『栄光』はすべてデータですから、自由に切り貼りができます。

全号の目録も毎月データとして記録してありますから、いつ、誰が、どのようなテーマで執筆したか、即座に検索できます。同時に記事が読めるわけではありませんが、目録で検索してその記事を探し出すことは容易です。

先生の話を聞くことができた。それは、ヨハネ21・1〜14をテキストにした話で……と書き出しています。その次の執筆者は妻で「無くてならぬものは一つだけである」と題した一文です。

記録は次の世代に役立つように保存されるべきだと思います。1985年以前は中のページの上部に年月が記されていないため、どの号のページかパッと分かりませんでした。また合本にもかかわらず欠けている号が2つありました。幸い、古くからの教会員が1号から合本にして保存していましたが、索引を作成して分かっていたのですが、号が抜けていたり、間違っている号もありました。バトンタッチできるよう徐々に励みたいと思います。(岸 俊彦)



個人消息



掲示板

- 神学校日 10月8日(日) 午前10:15
説教「何もかも捨てて」小林光恵神学生
- 西南支区伝道集会 10月21日(土) 午後1:30
於 聖ヶ丘教会
- 全国信徒大会 10月28日(土) 午後1:00
於 富士見町教会
- 降誕前第9主日礼拝
10月29日(日) 午前10:15
説教「私達に約束されている栄光」種房惇子教師
- 召天者記念礼拝 11月5日(日) 午前10:15
- 合同礼拝・幼児祝福式
11月12日(日) 午前10:15 説教 中村謙一教師
- 創立86周年記念礼拝
11月19日(日) 午前10:15



編集後記

▽私の身体を整える方法は浴槽につかってマッサージすること。最近はゲルマニウム温浴にはまり大汗をかいています。(酒井)

「栄光」2023年10月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp